

原価計算論教育・研究の課題と展望 (Ver.2)

2022年2月11日(金・祝)

尾畑 裕

Ver.2 の変更点 [ダウンロード可能な文献に DOI を付記しました。](#)

1. はじめに

・35年間にわたる一橋での原価計算の教育と研究を振り返り総括し、それをふまえて今後の原価計算論の教育と研究の課題と展望を示したい。

- ・教育
- ・研究
- ・政策提言

きょうは最初の2つに焦点をしぼる

2. 原価計算の教育

(1) 学生にとっての原価計算のイメージ

- ・資格試験(公認会計士試験、検定試験)に必要
- ・計算科目

(2) 実際の原価計算システムの設計や構築のさいに原価計算の授業で身に着けた内容は役立っているか

- ・原価計算の学習の仕方による
- ・学生は、問題は与えられるものと思っていないか
- ・実務の問題の解決には想像力が必要

(3) 原価計算教育の目的

原価計算システムの設計や構築のさいのリーダーの養成

(4) 尾畑が一橋の授業(原価計算の授業やゼミ)で目指したもの

実務対応能力をどう涵養するか

実務では大学の授業ほど複雑なことはしないが、大学の授業以上に創造性を要求される

① データベース・SQLを使った課題に挑戦させる

(ゼミおよび原価計算の授業)

- ・大量のデータを与えて集計作業から行わせる
リレーショナルデータベースとSQLを教えて、
1000行を超えるデータから必要なデータを抽出、集計させる

② Javaによる原価計算システムの構築(ゼミ)

- ・Javaの強力な型づけを利用して、原価計算の構成要素を概念的に意識化する。(Money型、Quantity型、Usage型、UsageContainer型、Operation型、Lot型、Lot型を継承するPlanLot型、ActualLot型など)

岡本清先生の「原価計算」の序文に以下のような文章がかかっている。

「原価計算は書物を読むだけでは深く理解することは不可能であって、自分で計算し、確認する作業を繰り返してはじめて充分理解することができる。」

原価計算のロジックは、計算プロセスを示すことを通じて伝達されてきた

原価計算のロジックを、ロジックとして記述できないか

- ・ Java による原価計算システム構築用の部品を使って、原価計算のロジックそのものを記述して意識

(5) 原価計算教育の課題と展望

① 資格試験のジレンマをどう解決するか

受験者に身に付けてもらいたい能力と出題できる内容のギャップ

資格試験や検定試験には正解がないといけない。(できるだけ別解は回避)

資格試験や検定試験で問えることと、問えないことがある

② 資格試験に役立たない原価計算能力にどう関心をもってもらうか

資格試験や検定試験で問えない能力があるならば、その能力を身に付けてもらうにはどうするか

→ そのこと自体に興味を持ってもらう

プログラミングの利用はその1つ。

プログラミングにはエラーというフィードバックがある。

③ 原価計算システムの設計や構築のさいのリーダーが具えるべき資質とは

原価計算の知識だけでは完結しないが、

原価計算についての応用力のある実務的想像力は必須

シュマーレンバッハ (Schmalenbach, E.) のいう思考訓練 (Denkschulung)

④ 「原価計算基準」と原価計算教育

「原価計算基準」は、多くのテキストの基礎になっている。

「原価計算基準」に書かれている手続きを覚えるより、

その精神を理解させるべき。

諸井勝之助先生は、「原価計算基準」は中西寅雄著であると強調された。

なぜ「原価計算基準」でそう書かれているかを理解できるようにする。

⑤ 制度外の原価計算を原価計算教育でどう教えるか

制度外原価計算といっても原価計算制度と重複する部分も多い

制度外原価計算のテキストが必要

その手始めとして書いた論文

「制度外製品原価計算論序説」経営会計レビュー1 (1) .2020. 30-44.

3. 原価計算の研究

(1) 原価計算研究の減少とその原因

原価計算を真正面から研究対象にした研究は非常に少なくなった。

原価計算の計算構造を論じるような論文は、査読つきジャーナルになじまない

(2) 尾畑が研究として扱ってきた問題

① 原価理論の歴史的研究と原価計算への原価理論の応用

『ドイツ原価理論学説史』中央経済社.2000.

「収益作用因の理論的分析とその収益計算・原価計算への応用」
一橋論叢 116 (5). 1996. 866-879.

<https://doi.org/10.15057/12012>

「サービス業の生産・原価理論とその製造業への適用」

『ソフト・サービスの管理会計』中央経済社. 1993.

② オブジェクト指向原価計算の提唱（原価計算教育とも関係深い）

「オブジェクト指向原価計算の基本構造」一橋論叢 128(4).2002. 402-418

<https://doi.org/10.15057/10250>

スナップショット・コストイングの提唱

「スナップショット・コストイングの展開」商学論纂 55 (4).2014. 1-20.

<http://id.nii.ac.jp/1648/00006130/>

標準仕様化と原価計算

「標準仕様化が原価計算・原価管理に対して有する意義」

企業会計. 63(6).2011. 18-24

③ 「原価計算基準」に関する研究

「原価計算基準から原価・収益計算基準へ（特集 原価計算基準から原価・収益計算基準へ）」

会計 181 (2).2012. 149-163.

④ IoT とコストマネジメントに関する研究

制度外製品原価計算

「IoT の原価計算・コストマネジメントへの活用」原価計算研究 42 (2).2018. 1-13

https://doi.org/10.20747/jcar.42.2_1

「IoT データ活用のための原価計算理論の構築」原価計算研究 43 (2).2019.1-9.

https://doi.org/10.20747/jcar.43.2_1

(3) 研究者が貢献できる原価計算問題

実務上の問題を科学的に解明

IoT とコストマネジメント研究会（日本原価計算研究学会・IVI）の試み

実際の原価データを使った統計的分析

原価データの平均から分布へ

曾根健一朗・難波圭佑・岡田幸彦「標準原価管理の革新可能性」

『経営会計レビュー』1(1). 2020..63-78.